

I 学校の概要

学習習慣形成モデル校事業

東かがわ市立引田小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 33名	1学級 35名	2学級 36名	2学級 41名	1学級 33名	2学級 48名	2学級 6名	11学級 231名

○教員数 17名

◆学校の特徴

本校は、旧相生小学校と旧引田小学校の統合によって2011年4月に開校した。同一敷地内に引田中学校が併設されており、「小中連携によって9年間を通して児童生徒を育てる」という基本方針のもと、小中連携教育を推進してきた。小中の職員室が同室であり、児童生徒が共有する施設もあるため、教員・児童ともにスムーズな交流が行われている。これまでの7年間、小中合同の行事開催、小中学生の学習交流、小中合同の校内研修（教員相互の授業参観、課題解決の協議等）、小中相互の乗り入れ授業等に取り組んできた。

児童生徒は、小中9年間をほぼ同じメンバーで過ごすため、学校全体に落ち着きがある。また、保護者や地域の方は学校教育に協力的で、行事やPTA活動のへ参加も多く、アンケートでも学校の取組に対して肯定的な回答の割合が高い。

児童の生活習慣や学習習慣には個人差があり、計画的な時間の使い方が小中ともに課題となっているため、学習習慣形成に向けて、家庭への啓発の工夫が重要となる。また、家庭学習の時間も県平均に届いていない。

なお、2020年度には小中一貫教育が導入される予定である。小中一貫校としての開校に備え、今までの小中連携教育の成果を検証・改善しながら今後の研究を進めることにしている。

II 研究主題等

研究主題

「生き抜く力をもった子どもの育成のために」
～小中一貫校へ向けての取組～(生活習慣から学習習慣へ)

◆研究主題設定の理由

本校の児童生徒は、指示された内容に対してまじめに取り組み、2017年度の香川県学習状況調査では、小学校で学力の改善傾向が見られた。全体的に受け身の傾向が強く、学習への主体性は今一步である。校内の調査では、家庭学習の平均時間は、めあての「10分×学年+20分」よりも少なく、計画性にも課題がある。

小中連携教育から小中一貫教育へと移行していく状況の中、「小中9年間の学びを系統的に見直し、①学力向上、②道徳教育及び人権・同和教育の充実、③生徒指導及び特別支援教育の充実の3つの視点から、小中ともに発達段階に応じた指導を行うことで、児童・生徒の力を伸ばす」という目標のもと、研究主題を「生き抜く力をもった子どもの育成のために」、副主題を「小中一貫校へ向けての取組」とした。

このうち学習習慣については、小1での生活習慣形成から中3での自主的な学習習慣の確立までを見通した長期的な視野に基づいた取組を進めたい。学習習慣は短期間で身に付くものではなく、長期にかつ繰り返して指導を重ねることによって形成されていくものだと考え、副主題に「生活習慣から学習習慣へ」という内容を取り入れて研究を行うことにした。

◆研究内容及び方法

(1)学習習慣形成につながる授業の工夫

①学習規律の徹底と授業パターンの確立（課題設定と振り返り）による基礎・基本の徹底

- ・「学びのときめき 授業改善5つの視点」の内容を取り入れ、共通実践する。

②児童が意欲的に学習に取り組める課題の設定

- ・「解決したい」、「やってみたい」と思えるようなめあてを設定する。

③家庭学習につながるような振り返りと新たな課題の提示

- ・児童が本時の学びを振り返り、「わかった」、「できた」、「もっとこんなことを知りたい」という意欲をもち、家庭学習につながるような課題を提示する。

【研究授業】

月 日 (曜)	教 科	学級	単 元 名
9月12日 (水)	国 語	4-1	「身の回りの文章を読みくらべよう」
11月28日 (水)	算 数	6-1	「比例・反比例」
1月23日 (水)	算 数	1-1	「大きい かず」

(2)家庭学習の充実による学習習慣形成

①宿題の質や量の共通理解と共通実践

- ・現況に基づき、ガイドラインを策定し、基本的な内容を決める。
- ・同学年の担任同士で歩調を合わせる。
- ・学年の発達段階に応じた質や量を工夫する。
- ・主体的な学習態度につながる宿題の内容の検討・実践を行う。

②「家庭学習の手引き」の再見直しと活用推進

- ・昨年度改訂した手引きに自主学習の内容を具体的に提示し、効果的な活用の推進を図る。
- ・家庭学習の方法を保護者に周知し、協力を依頼することによって家庭との連携を図る。
(PTA 総会、学級懇談会、家庭訪問、個人懇談、学校・学年だより等)

③家庭学習強調週間による家庭学習の振り返り(年2回)

- ・家庭学習時間や生活習慣のチェックを行い、改善策を検討し、実践に結び付ける。

(3)中学校につながる段階的な学習習慣形成

①生活習慣の見直しと家庭学習習慣の定着

- ・生活習慣調べ(元気アップカード)を実施し、個別指導によって低学年のうちから指導を重ねる。

②家庭学習のがんばりを評価する場の設定

- ・校内掲示板等を利用し、家庭学習の実践を周知する場を設け、参考にできるようにする。
- ・全体の前で、がんばりを発表し合う機会を設け、相互評価の推奨を行う。

③中学校進学に向けた家庭学習の実施

- ・中学校の教科別学習や自主学習の実施について、発達段階を踏まえながら順次取り入れていく。

Ⅲ 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童質問紙) 授業の内容がどの程度分かりますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

学習習慣形成につながる授業の工夫

研究授業では、「児童が意欲的に取り組める課題の設定」「家庭学習につながるような振り返り」を中心に研究を進めた。また、「学びのときめき 授業改善5つの視点」の内容を共通実践することで、家庭学習とつなぐ工夫をした。

事前研修では、教材について話し合い、全教職員で協力して授業づくりに努めた。

1 4年 国語「身の回りの文章を読みくらべよう」

学習内容を家庭学習とつなげるためには、「わかった」、「できた」、「もっとこんなことを知りたい」という意欲が大切である。単元の導入では、身の回りの広告や説明書を紹介し、身近なものに目を向け調べたいという意欲付けを行った。それぞれの目的や表し方の違いを分析する際、自信をつけさせるために、スモールステップで手順を示した。



【事前研修】

単元の終末には、選んだ広告や説明書を自分の観点で分析させ、学んだことが実生活に生かせる実感をもたせるとともに、自主的な家庭学習の取組につなぐ。

【読み比べる学習】

指導者からは、小中のつながりを大切にした読む指導の系統性や読み比べる力の向上に向けた指導のポイント等についての助言をしていただいた。

2 6年 算数「比例・反比例」

本校は、1年後の小中一貫教育導入に向けて、中学校を意識させた授業を高学年から実践している。本単元では、数学的な見方や考え方を養うため数学的な用語を適宜補充しながら、「関数」に興味をもたせ、「もっとこんなことを知りたい」という意欲を高めた。研究授業では、今まで学習した比例・反比例が身の回りで使われている例として、海外旅行における通貨の換算場面をVTRで再現し、児童が「解決したい」、「やってみよう」と意欲的に学習に取り組める課題を設定した。また、終末では数学的な見方や考え方を実生活に生かそうとする意欲をもたせた。

指導者からは、新学習指導要領の趣旨に基づき、自ら問題を見い出すことができる算数の授業づくりについて具体的に助言をしていただいた。

生活の中で使われている比例として、為替レートを取り上げた。



【選んだ通貨を換算する児童】



【課題解決の意欲を高めるVTR】

2 年 組	海外旅行	ドル
外国幣	ドル	を円に換算する
外国為替レート	1円 = 0.01ドル	
× 外国 1ドル	0.01 0.02 0.03 0.04 × 0.05	
× 日本 円	1 2 3 4 5	
計算式	$円 = 0.01 \times 円$	
	(比例) 反比例	の判別

2 (保護者質問紙) 学年の家庭学習目標時間を達成している。

指標 「①している+②どちらかといえばしている」の合計



3 (保護者質問紙) 子どもに家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。

指標 「①している+②どちらかといえばしている」の合計

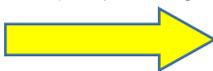


指標の達成に向けた実践

家庭学習の充実による学習習慣形成

1 再改訂版「家庭学習の手引き」の活用

昨年度改訂した家庭学習の手引きをもう一度見直し、配布した。東かがわ市が重点的に取り組んでいる英語の自主学習方法も新たに付け加えることで家庭学習に興味をもって取り組めるよう工夫した。

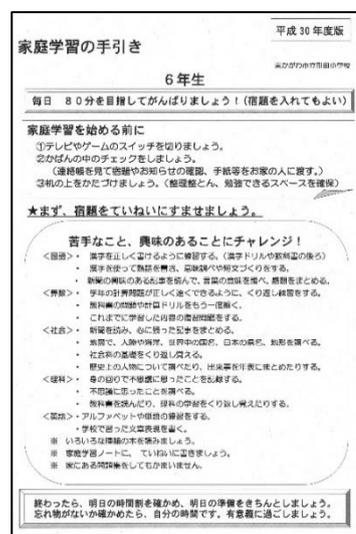


2 保護者啓発の強化による意識改革

年度初めの学級懇談会で、家庭学習について話し合う場を設けた。また、保護者が集まるPTA 総会や地区懇談会でも家庭学習に関する啓発の機会を設けた。さらに、学校便りやホームページのブログでの情報発信に努め、がんばり週間のお知らせや結果報告等をタイムリーに知らせることにより、学習習慣形成への協力を得ることができた。

【保護者アンケートより】

- ◇自主勉強をしたあと、記録をしていって最後に賞状がもらえるようにしてくれていると聞きました。早く欲しいうちの娘は喜んでます。(1年 保護者)
- ◇子ども自身は家庭学習をすると勉強したことがよく分かるという実感があつたようです。(3年 保護者)
- ◇塾やスポーツ少年団に行っているので、本人も疲れているようで、思うように宿題以外の学習をする時間が取れないのが現状です。(5年 保護者)



【再改訂版 家庭学習の手引き】

9/5 引小ニュース速報！「夏休み自主学習へのチャレンジの結果」

「自主学習37日間完全制覇」達成者に賞状が渡されます！

37日間の夏休み期間中、毎日自主学習に取り組み、完全制覇した子どもたち39名に、橋本校長先生からの賞状が渡されます。

勉強にかぎらず、「1日も欠かさず、根気強く継続する努力」は本当に素晴らしいですね。これからの学校生活や家庭での生活にもどんどん生かしてほしいと思います。



【PTA 総会における保護者啓発】

【ブログによる速やかな情報発信】

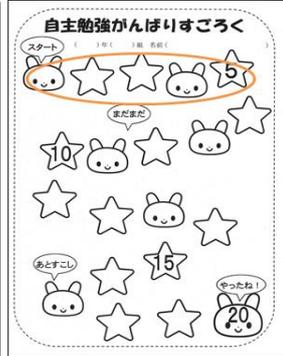
指標の達成に向けた実践

家庭学習のがんばりを評価する場の設定

1 がんばりすごろく がんばりの木の掲示(1・2学期)

学習習慣の形成や家庭学習の充実の状況が目に見えるようにしたものである。自主勉強をした日に、表面のカードに学習内容を記入し、次の日の朝に学級担任が確認して裏面のすごろくにシールを貼る。シールが5つ貯まると校内の掲示板に名前カードが掲示されるシステムである。また、20個シールが貯まると、賞状がもらえるため、特に低学年の子どもたちが意欲的に取り組んだ。

日	学年	組	氏名	取り組んだ学習内容	取り組んだ時間
1	高	低	高		
2	高	低	高		
3	高	低	高		
4	高	低	高		
5	高	低	高		
6	高	低	高		
7	高	低	高		
8	高	低	高		
9	高	低	高		
10	高	低	高		
11	高	低	高		
12	高	低	高		
13	高	低	高		
14	高	低	高		
15	高	低	高		
16	高	低	高		
17	高	低	高		
18	高	低	高		
19	高	低	高		
20	高	低	高		



【自主学習がんばり表とすごろく】

【自主学習がんばりの木】

2 自主学習内容の掲示(年間)

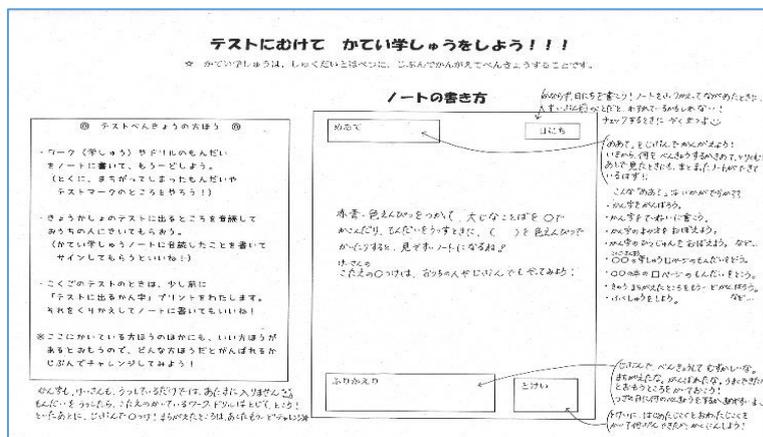
自主学習の掲示板上には、小学校1年生から中学校2年生までの自主学習のノートのコピーを掲示した。小学生も中学生も通る廊下に掲示することで、他学年の学習内容に興味を高めることができた。また、自分もノートを掲示してほしいという気持ちが生まれ、意欲付けにもなった。各学級でも、自主学習の掲示や学習内容を家庭とつなぐための取組の紹介を実施した。

身の回りにあるいろいろな速さを分類してテーマごとに一覧表にまとめた。



【小1から中2までの自主学習ノート掲示コーナー】

【6年算数「速さ」の掲示物】



【2年 自主学習の手引き～特別編～】

【4年 背面黒板の自主学習コーナー】

◆特徴的な取組

1 校長先生と〇〇したい！

「自主勉強がんばり表」と「すごろく」を学級で貯めて、校長と給食を食べたり、校長に体育の授業に参加してもらったりした。一人でがんばるよりも、学級全体で目標に向かってがんばることで、学級のパワーアップにつながった。

2 リンゴの木

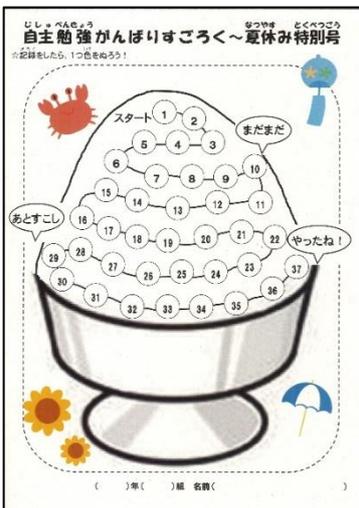
自主勉強がんばり表が1枚貯まると、賞状+リンゴの実に名前を書く取組を2学期から実施した。特に強調月間には、リンゴの実の色を金色に変えるなど、めりはりのある取組にすることで子どもたちはモチベーションを継続できた。



【20日間達成でもらえるリンゴの実】

3 長期休みも自主勉強！

自主勉強がんばり表は、長期休みにも特別バージョンを持ち帰り、家庭学習の習慣を定着させた。



【がんばりすごろく夏休み特別号 冬休み特別号】

すごろくや賞状を目標にがんばる子が増えたと思う。
(4年 担任)

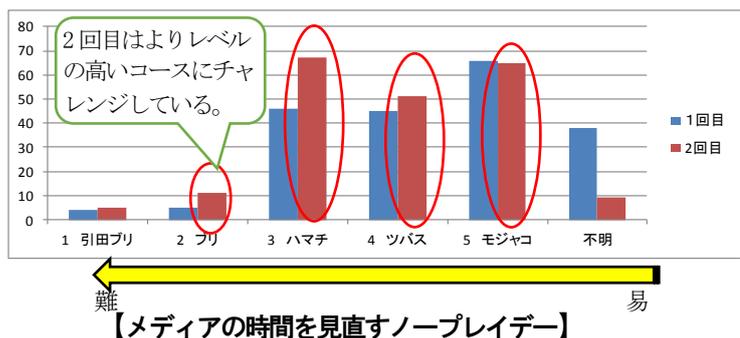
夏休みのすごろくは保護者もよく見ており、自主学習に協力的だった。
(1年 担任)

4 生活習慣調べ(元気アップカード)

年2回、長期休み明けの5月と9月に行った。例年の早ね早起き朝ごはんの調査に加え、今年度は「ノープレイデー」を実施した。1日の中でメディアに接する時間を決め、メディアとの関わり方を見直し、家族のふれあいの時間や生活リズムの乱れを見直し、基本的な生活習慣の確立をめざすものである。最初、チャレンジするコースが不明だった児童も、前向きに取り組むようになり、時間をコントロールする力を身に付けてきた。6月と11月の学校保健委員会では、さぬきっ子安全安心ネット指導員、大学教授など外部講師による「メディアとのつきあい方」についての研修を実施した。

コース	取り組み内容
1 引田ブリ	朝から寝るまでノープレイ
2 ブリ	学校から帰った後ノープレイ
3 ハマチ	メディア1日1時間
4 ツバス	メディア1日2時間
5 モジャコ	夕食の時だけノープレイ

【チャレンジコース】



IV 研究の成果と課題

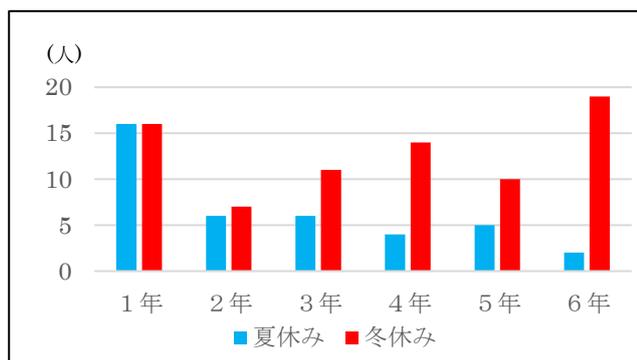
1 成果

(1) 「学習習慣形成につながる授業」の事前研修、授業参観、事後討議会に全員が参加することにより、「みんなで考え、実践し、みんなで振り返る授業研究」とおして、児童の発達段階における「わかった」、「できた」、「もっとこんなことを知りたい」という意識を喚起する課題設定や指導方法を深めることができた。

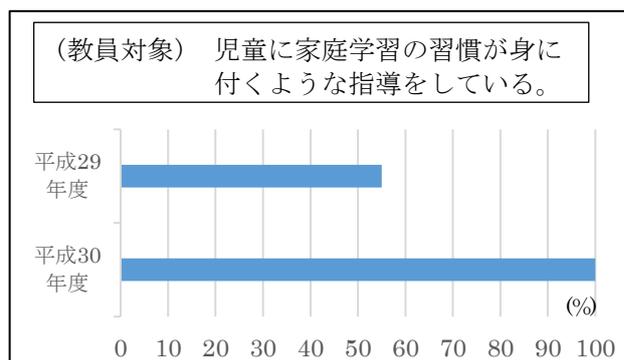
校内研修として、併設中学校の数学と英語の授業を小学校教員全員が参観した。中学生が意欲的に学習に取り組めるための工夫を学ぶことができ、小学生の実態に合った形で取り入れていきたい。

(2) 児童だけではなく、保護者や教職員の意識も変わり、家庭学習への取組が定着してきた。機会あるごとに保護者に情報を伝え、依頼することによって、学校と家庭が一体となった取組が進み、児童の家庭学習への意欲向上や学習習慣の形成に反映されたと考えられる。

(3) 児童の中に、「宿題+α」の学習をするという姿勢が自然とできてきた。長期休業中の「自主勉強ががんばりすごろく」の夏休みと冬休みの結果を比較すると、毎日家庭学習に取り組んだ児童が高学年（特に6年生）で増加していた。次第に、中学校を見据えた学習態度が育ってきていると思われる。また、17日間の冬休みには、全校生の3分の1の児童が毎日自主学習に取り組み、意欲が向上している。



【長期休業中ががんばりすごろく達成児童】



【教員対象のアンケート結果】

2 課題

(1) よりよい学習習慣につながる授業のために、本校が小中ともに共通理解と共通実践をめざしている「めあて」と「まとめ」と「振り返り」を意識した授業づくりに今後も引き続き取り組み、学力の向上をめざしていきたい。

(2) 賞状やシール等の効果は低学年の児童には見られたが、高学年の児童にはあまり見られなかった。また、家庭の協力や児童の意欲向上について、個人差に対応するよう根気強く働きかけてきたが、すべての児童に家庭学習の習慣形成ができたとは言えない。今年度の取組から、無理のない継続可能な方法を考え出すことにより、一人一人の子どもが自分に合った方法で学習習慣を改善できるようさらに工夫したい。

(3) 小1での生活習慣形成から中3での自主的な学習習慣形成をめざし、「生活習慣から学習習慣へ」をつないでいく上で、メディアとの適切な関わり方は、喫緊の課題となっている。小学校のうちに、「宿題をしてから遊ぶ」という習慣をきちんと身に付けさせたい。時間を上手に使い、自分でコントロールできるようになることをめざし、中学校へスムーズに接続できるようにしたいと考えている。